

令和4年度 第1回山北町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和4年11月28日(月)
開会：10時30分 閉会：11時40分

- 2 開催場所 山北町役場 401会議室

- 3 出席者(敬称略)

- (1) 委員 6名

山北町長 湯川 裕司

山北町教育委員会教育長 石田 浩二

山北町教育委員会教育長職務代理者 野地 泰次

山北町教育委員会委員 小菅 正子

山北町教育委員会委員 今村 敏雄

山北町教育委員会委員 佐藤 直美

- (2) 事務局 2名

参事兼企画総務課長 佐藤 孝行

企画総務課主幹 平野 泰輔

- (3) オブザーバー 3名

こども教育課長 高橋 英治

こども教育課主幹 八崎 任希

生涯学習課長 畠山 佐和子

- 4 傍聴者 0名

- 5 会議概要

- 1 開会 参事兼企画総務課長
- 2 町長あいさつ 湯川町長
- 3 教育長あいさつ 石田教育長

4 議 題

(1) 山北町総合教育会議設置要綱の一部改正について

湯川町長	それでは、議題（1）山北町総合教育会議設置要綱の一部改正について、事務局より説明をお願いしたい。
事務局	資料により説明。
湯川町長	この件に関してご意見、ご質問があれば発言をお願いしたい。 ～ 意見、質問なし ～ ないようであれば、山北町総合教育会議設置要綱の一部改正について、承認するということによろしいか。
全委員	異議なし
湯川町長	それでは、山北町総合教育会議設置要綱の一部改正について、承認することとする。

(2) 0歳から15歳までの一貫教育・保育の推進について

湯川町長	次に、議題（2）0歳から15歳までの一貫教育・保育の推進について、教育委員会こども教育課の八崎主幹より説明をお願いしたい。
八崎主幹	山北町「0歳から15歳までの一貫教育・保育」基本方針により説明。
湯川町長	この件に関してご意見、ご質問があれば発言をお願いしたい。
今村委員	町では、英検を受検する中学生に対して検定料の補助を行っているが、私の周りでも英検を受検する小学生が増えてきている。現実的に、3級合格はかなり難しいため、小学校高学年位から英語に親しむことが必要だと思う。
石田教育長	今年度から受検料の補助を行っている。現状、大幅に受検者数は増加していないが、昨年よりは増加している。そういう面では、小さい頃から環境を整えるということは非常に大事なことだと思う。小学校と中学校の連携も進めており、中学生に限らず希望があれば小学生まで対象を広げることもよい考えではないか。
野地委員	先ほど教育長より、0歳から15歳までの一貫教育・保育について成果が少

しずつ見られているとの説明があったが、具体的にどのような成果が見られているのか。また、一貫教育の中で特別な支援が必要なお子さんや、障がいのあるお子さんを共通して育てていかななくてはならないわけだが、その2点についてお聞きしたい。

八崎主幹

成果としては、先生方の情報共有が盛んになったことで、子どもたちにとってよりよい交流ができるようになってきていると感じている。先ほど説明させていただいた、お米作りでの「かかし」の事例は、事前に計画されたものではなく、川村小学校と岸幼稚園との間で情報共有を重ねていく中でそのような実践につながり、お互いにメリットを得ることができたものである。

それから、先生方はこれまで授業参観へは割と参加されていたが、町が講師を招いて実施している研究会等へ積極的に参加されるようになり、より深い研究を重ね、理解が進んだものと考えている。

石田教育長

園と小学校、あるいは小中学校の連携について、先生方自身が理解し、積極的に関わろうとしている様子が見えるようになってきたと感じている。

また、支援が必要な子どもへの支援体制については、「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の基本方針の中にしっかりと位置付けてられており、さらに切れ目のない支援を充実させていきたい。また、具体的な内容については今後更に深めていかなければならないと考えている。

湯川町長

一貫教育やインクルーシブはもちろん進めていかなければならないが、小学校の高学年位からインターネット等を通じて様々な情報が子ども達の中に入り、色々な興味を持ち始める中で、それぞれの個性を伸ばしていくようなことも必要だと思う。

小菅委員

最近、テレビドラマをきっかけとして手話に興味を持つ小中学生が多くなった。テレビ等で話題になるような事柄についても、学校でその入り口だけでも取り上げてもらえばよいのではないかと。

佐藤委員

郷土愛の育成も大切なことである。今、子ども会活動が無くなりつつある中で、園や学校において地域のお祭りの周知や、参加を促してもらおう等、郷土と

の接点を持つことは重要なことだと思う。現状、仕事等で保護者の方が地域の行事に関わるのが難しい中、お爺さんお婆さん世代が指導者として地域の行事に参加し、子ども達とのつながりを持つことで、地域愛を育むことも必要だと思う。

また、百万遍念仏等の保存会の方たちが、次の世代を育てるのに大変苦勞されている。今の子ども達に必要なのは、ゲームやインターネットではなく、将来心に残る体験や体感をする事だと思う。クラブ活動との兼ね合いもあると思うが、町としても子ども達に地域での体験や体感をさせられるようにしていく取り組みが必要だと思う。

湯川町長

「山北のお峰入り」がユネスコの無形文化遺産へ登録されることが正式に決定する運びとなりそうである。他にも、町内には伝承していかなければならないものがたくさんある。例えば「川村囃子」や「洒水太鼓」は成り手が減っており、「室生神社の流鏝馬」も乗り手が少ないことなどが課題となっている。

石田教育長

色々な事が多様化してきており、これまでのように全員が同じ方向というわけにはいなくなってきた。多様性に配慮しながら、それぞれの希望を叶えられるような方向で進めていく必要がある。もちろん、それぞれの年齢に応じた郷土愛の育成は必要だが、アプローチの仕方については様々な方法があつてよいと思うし、その辺りは整理していく必要がある。また、学校教育だけではなく、地域も巻き込んで考えていかなければならない問題だと思う。

佐藤委員

新型コロナウイルス感染症の影響で色々なことが終了してしまったり、未だに中断している状況がある。経験者でないと再開するのは中々難しく、元々無かったものになってしまうのではないかという危機感がある。

湯川町長

子どもの人数が少ないので取り合いになってしまうような現状がある。自分に合うかどうか、一度全て体験してもらい選択してもらおうようなことができればよいのではないかと思う。

そのほかに、ご発言はありますか。なければ、議題（2）については以上とさせていただきます。

(3) 中学校部活動地域移行について

- 湯川町長 次に、議題（3）中学校部活動地域移行について、引き続き、八崎主幹より説明をお願いしたい。
- 八崎主幹 資料により説明。
- 湯川町長 この件に関してご意見、ご質問があれば発言をお願いしたい。
- 石田教育長 現状、山北中学校の部活動については、運動部は男子が5つ、女子が4つ設置されている。また、文化部については吹奏楽部と美術部の2つが設置されている。中学校の生徒数の現状は、各学年60～70名程となっており、小学校の児童数もほぼ同数だが、来春の新就学児童数が45名の予定であり、今後数年でかなり減少してくると思われるため、現状の部活動の維持がかなり難しくなってくると思われる。
- それから、今後、3年以内に地域移行しようという提言がされているわけだが、まずは休日の部活動について移行し、将来的には平日も移行していくという内容となっているが、はたして地域にスポーツ団体や指導者がいられるのかどうかも非常に大きな課題だと考えている。
- 教育委員会としては、来年、まず検討会を設置し、課題を整理してその課題をどのように解決していくのか、その先に本町に対応した部活動の在り方をつくっていく必要があるのではないかと考えている。
- 野地委員 人材確保は大きな問題になると思うが、対価報酬は町の支出となるのか。国が補償するのか。ボランティアになるのか。
- 石田教育長 現在は国の補助もあるが、長期間にわたり補助されることはないと考えている。他にも、遠征費用、備品の取扱いやその費用負担、スポーツ保険、中学校体育連盟の正式大会への旅費補助など、整理しなければならない課題が山積している。
- また、それらの課題を本町だけで解決するのは困難と考えており、例えば足柄上地区1市5町、あるいは県西地区といった広域的な連携を視野に入れて考えていかなければ、今の部活動を継続していくことは難しいと思う。

- 湯川町長 ある程度実務的な部分は、活動連絡会において、例えば足柄上郡5町などで考えていくと思うが、教育委員会としては、そういった実務的な部分も含めて、どのような視点で整理していくのか、子どもの安心安全なのか、あるいは教育なのか、検討していく必要があると思う。
- 野地委員 このような取り組みを進める場合、これまでであればモデル校が設置され、全国に広めていくという形を取っていたかと思うが、今回はどのような進め方になるのか。
- 石田教育長 近隣自治体では、秦野市あるいは二宮町で、一部の部活動の地域移行に対して補助するといった実践を行っているモデル校がある。しかしながら、それらは、既に人材バンクが構築されている等、ある程度整理が進んでいる事例であり、ゼロスタートとなる本町とは状況が全く異なるため、同じように進めることは中々難しい。
- 湯川町長 私が以前に国から説明を受けた中で、先進的な事例についても何点か説明を聞いたところである。地方自治体が主体となって進めるケース、民間事業者に委託して進めるケース等様々だが、私が強く印象に残ったのが大阪府における事例である。ある一つの部活に特化して進めていく手法であったが、他の部活動を希望する生徒はどうするのか疑問に残ったところである。
- 野地委員 本町において中学校を統合した理由の一つに部活動の課題があったと認識している。「自分が進学する中学校に希望する部活がない」といった課題を解決するための統廃合だったと思う。それを、一つの例だとは思いますが、一つの部活に特化するということになると、生徒のための取り組みになっておらず、むしろ逆行していると感じてしまう。先ほどの議題で町長が発言されたように、子ども達にとって一番伸びるであろう時期に、子ども達が希望しないことを行うような方法は意味がないと感じるがどうか。
- 湯川町長 私が受けたイメージでは、とにかく国も手探りで進めているのではないかと思う。今示されている先進事例は、どれも規模が大きな自治体、又は既に地域移行を行える基盤が整っている自治体であり、規模が小さい自治体は現実的に

直ぐ地域移行することは難しいと思う。

佐藤委員

先日、休日はクラブチームで活動し、平日の学校の部活動は、クラブチームとは別の種目を行っている生徒の話を聞いた。色々と多様化しすぎていて、子ども達も選択が難しくなっているように感じる。

小菅委員

クラブチームの種目の部活動には所属できないことになっている。例えば野球やサッカーはクラブチームがあり、そちらに所属している生徒は、その種目の部活動の試合には出場できないというルールがあると聞いている。

また、休日にクラブチームの試合を優先すれば、平日に行っている別の種目の部活動の試合には出場できない。それらも認めた中で部活動側は受け入れている状況があると思う。

石田教育長

今までの部活動の形もあれば、今は「総合型スポーツ」という、例えば季節ごとに色々なスポーツに取り組む考え方もあり、それらも考慮して検討していかなければならないと思う。本当に一律ではなく、難しい問題だと考えている。

小菅委員

中学校の先生が私設でクラブチームを作り、主体は部活動となるが、部活動の大会以外にはクラブチームの試合にも出場できるといった手法もあるようである。そのような形で地域移行ができるのであれば、同じ種目でも両立が可能となるのではないかと思う。ただし、先生方が皆、そのようなことができるわけではないので、そこについても難しい問題だと思う。

また、規模が大きい自治体のように、一つの自治体の中に複数の中学校があれば、その中で種目や指導者の調整ができると思うが、山北町のような小規模な自治体では、広域的に連携し分担していかなければ、チームとして試合ができるようなレベルの練習は難しいと考える。指導者の確保も難しく、指導者がボランティア扱いとなると、その方の仕事のことも考慮していく必要があると思う。

野地委員

部活動は必ずしも中学校の先生方が担う必要のない業務であるという考えが発端であり、先生方の業務負担を軽減させるところが本来の目的である。部活動が、日本のスポーツを支えてきたところがあるとは思う。部活動に積極的な

先生もたくさんいられるが、部活への活動時間を削減して、本来の業務である授業の方に専念させようということだと思う。

この取り組みは本当に大きな見直しになるので、小規模な自治体にとっては大変なことである。国の方で、ある程度海外のようなシステムを確立させた上で地域移行していくといった段階を踏んでももらわないと中々難しい。国内の先進事例や、部活動を行っていない海外の事例の情報をもらい、取り入れていかないと議論も難しいと思う。

石田教育長

既に様々な課題が山積しているような状況である。兼職兼業といって先生が部活動を継続したいと考える先生方もいられる。今後は、例えば町内に指導者がどの位いられるのか、その中に希望者はどの位いられるのかなど、実態調査を行い、現状を把握、整理した中で、検討会を立ち上げ町としてどのような方向で進めていくか検討していきたいと考えている。

湯川町長

この件については、これからスタートする段階であるため、今後検討を進めていく中で、また皆さんにご意見を伺いたいと思うので、よろしく願いしたい。

そのほかに、ご発言はありますか。なければ、議題（3）については以上とさせていただきます。本日の会議の議題はすべて終了となったため、進行を事務局にお返しする。

5 その他

事務局

事務局より事務連絡をさせていただく。次回の会議日程について、2月の中旬を予定している。具体的な日程は改めて調整し、ご連絡させていただく。

6 閉会 参事兼企画総務課長

以上